

## 調査報告書

- 1 とき：2012年2月9日
- 2 行先：日本共産党川崎市議団・横須賀港・港湾空港技術研究所
- 3 参加者：山口清明、さはしあこ、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容
  - ① 日本共産党川崎市議団との懇談(山口議員)
  - ② 横須賀軍港めぐり(山口・さはし議員・浜田)
    - ・ 海上自衛隊が1日から8日まで美浜町沖伊勢湾で、20隻の機雷戦艦艇と隊員約100人参加の機雷戦訓練を行った。訓練内容は機雷の敷設、除去、潜水処理。
    - ・ 軍港めぐりの長浦港には掃海艇が停泊していて海上から間近にみるのができた。掃海艇は磁石に反応する素材ではだめなので木で造られていたが、これからは強化プラスチックで造るとの説明があり、まだまだ多くの機雷が海底に残っているそうだ。
    - ・ 日本はアメリカに次ぎ、世界第2位のイージス艦保有数らしい。イージス艦の高性能レーダーでミサイルが防御されてしまうので、ミサイルはつかわれなくなり、攻撃方法の変化によりイージス艦に代わるものを開発しているそうだ。
    - ・ だから巨額のイージス艦も役に立たなくなる。機雷がなければ掃海艇も訓練も必要ない。世界中が平和になれば、この予算を使いどれだけのことができるだろう、とため息が出た。
    - ・ 名古屋港や他の港とは全く違う横須賀の軍港の景色には、驚きを感じました。
  - ③ 港湾空港技術研究所(山口・さはし議員・浜田)
    - ・ 会議室で「全国港湾海洋波浪情報網(ナウファス)」と「東日本大震災における防護施設の被災メカニズムと今後の対策について」のレクチャーを受けた。
    - ・ 今後の津波防護の考え方は、被害を完全に防ぐことは予算がどれだけあっても不可能で、どれだけ被害を小さくできるか、だとの言葉が印象的だった。
    - ・ そのために何をすべきか？海上の対策だけでなく防災教育もまちづく

りも重要だ。すべての国民が意識を持たなければいけない。

- 施設見学では「大規模波動地盤総合水路」「干潟実験施設」「大規模地震津波実験装置」の説明を受けた。地道ながらとても大切な実験だ。
- 研究には時間と費用が必要だからこそ、これからも公的に進めなければいけない。